

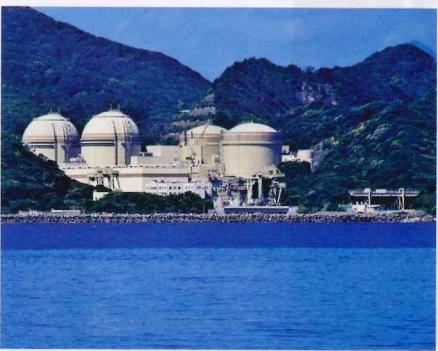
脱原発

民主プロジェクトチームが結論「原発ゼロでも乗り切れる」

「政府は原子力なしにこの夏を乗り切ら
れるのが怖いのです。もし原発なしに乗
り切ったら、やっぱり原発はいらないじ
やないか」という脱原発の世論が高まる。

夏前に原発を稼働させたい。政府と産業
界が夏の電力不足を盛んに煽るのはその
ためですよ」（民主党中堅代議士）

五月六日、日本国内の原発五四基が全
停止した。野田政権は福井県の関西電力、
大飯原発三、四号機の再稼働を試みたが、
滋賀県、大阪府など周辺自治体の反発を
受け難航。政府与党の民主党内からも異
論が噴出し、原発はすべて停止した。
それでも政府、電力会社、一部新聞は
「原発が停止して夏を迎えると大規模な
停電になる恐れがある」「電力不足を嫌
つて企業が国外へ脱出、産業が空洞化す
る」などと危機を訴えている。



電力は本当に足りないのか？ 政府と電力会社、メディア
に対する国民の不信感は増すばかり（写真は大飯原発）。

するのではない。この程度なら計画停電
をせず、エアコンを扇風機に変えるなど、
国民に節電を呼びかけば何とか対応で
きると思っています」

内閣府・国家戦略室のエネルギー・環
境会議が昨年七月二九日にまとめた電力
需給見込みによると、今年八月の電力会
社九社の電力供給力は最大で一億六二九

するのではない。この程度なら計画停電
をいるのです。大震災を経て電力に関する
国民の意識は大きく変わり、首都圏では
計画停電も経験済み。国民は政府が考え
るほど愚かではない。ピークから逆算し
て電力不足を強調するのは原発を再稼働
したいからだ」（前出・民主党中堅代議士）

エネルギー・環境会議では、一昨夏に基
づく試算とは別に、昨夏のピーク時
を基にした試算も出している。これは今
夏が昨夏並みの暑さで、昨夏同様の電力
の使用制限を行つたと仮定して試算した
もの。こちらの試算だと九社で逆に六三
六万キロワット（三・九%）の電力が余る計算だ。
つまり節電もせず、電気を使いまくった
場合は不足するが、昨年並みの使用制限
を行えば電力は余るので。

電力会社の言い分を 鵜呑みにする工エネ

当然のことながら、今夏の場合、政府
の方針次第では電力の無駄遣いはさらに
駄遣いした一昨年の需要実績を基準に
「足りない」としており、基準の設定じ
たいに問題があることは言うまでもない。
三四万キロワットは一昨年の最大電力需要一
億七九五四万キロワットのわずか〇・二%。こ
の程度で、国が減らせるかのような物言い
は異常です。電力不足が起るとすれば
関西電力管内だけでしょうが、そのとき
は市民に節電への協力を呼び掛けたうえ
で、他電力から電力を融通してもらうな
どの対策を取れば足りるはず」（荒井氏）

P.T.の川内博史事務局長もこう話す。

「兵庫県姫路市に、来年稼働予定の火力
発電所があり、近く試運転する。これを
予定より早く本格稼働させて発電させ
ばいいと資源エネルギー庁に提言したら、
同庁は試運転のことを知らなかつた。同
時通しを立て、『足りない』という。電力の
供給源は、探せばまだまだあります」

などの方法で九八〇万キロワットの節電が可能
になることが確認され、電力供給量も火
力発電などによって六四二万キロワットの供給
増が可能であることが判明した。

「これらの需給ギャップ解消対策により、
たとえ一昨年のような電力需要があつた
場合でも、電力の不足分は最大で三四万
キロワットまで圧縮できることがわかりまし
た」（荒井氏）